

上平間第二町会 防災意識アンケート 調査結果のご報告

2011.12.20
最終版

上平間第二町会の皆さん、「防災意識アンケート調査」へのご協力ありがとうございました。

たいへん遅くなりましたが、ここにその結果をご報告いたします。

アンケートへの回答内容については地区別に整理してグラフで示し、簡単なコメントを付して2ページから4ページに示しました。

なお、アンケート結果を整理していて注意すべき重要事項がいくつか浮かび上がって参りましたので下記の枠内に掲げました。はじめにご一読いただければ幸いです。

また、5ページから6ページは、参考資料として「地震から身を守る手引き」を添付しました。是非一度ご確認ください。

災害はいつ襲ってくるかわかりません。いざというときは私たちの身は私たち自身で守っていかなければなりません。そのためには日頃からの準備や訓練が不可欠です。

どうか日頃の備えを徹底して災害時の被害を最小限に抑えましょう。

2011年12月 上平間第二町会防災部

アンケート回答に関する注意事項として重要なもの

質問 1, 2, 3, 4 について

災害は家族が一緒にいるときに発生するとは限りません。日頃から万が一に備えて、集まる場所や連絡方法について決めておきましょう。

質問 5, 6 について

日頃から家具類の適切な配置や転倒防止処置によって、家の中に安全な空間を確保しておきましょう。家具や大型電化製品が凶器になる。

質問 8, 9, 10 について

日頃から常に万全の準備をしておくことが大切です。家族構成を考えて防災グッズをそろえ、保存食や飲料水は賞味期限が過ぎていないか定期的にチェックしましょう。水は成人1人当たり1日3リットル必要です。

質問 12 について

風呂の残り湯は捨てずに取っておけば、トイレの水として使用できます。

質問 13, 14 について

上平間第二町会の避難所は平間中学校です。避難所では円滑な運営のためにも、一人一人がルールを守って助け合う気持ちを持ちましょう。

質問 18, 19 について

屋根瓦落下やブロック塀・門柱の倒壊など、家の周辺における危険を把握し安全な空間を確保しておきましょう。

質問 21 について

町会で実施している「救急救命訓練講習会」に是非参加してください。一家に一人の救命。

質問 26, 27 について

消火訓練や応急救護は、一人では思うように練習できません。そこで町会の防災訓練や救急救命訓練は絶好の機会です。


目的 町会住民の「防災に関する意識」を把握し、適切な防災対策を構築するための基礎資料とする。
体制 第2町会理事会の全面的な協力のもとに防災部が実施した。アンケート調査票は防災部で検討し防災部長が作成した。
日程 平成23年8月に理事を中心に各地区へ下記のようなアンケート調査票を配布し、回収を行った。調査票配布数は町会費納入数とした。
結果 回収率および27項目の質問事項に関する〇回答数、回答内訳と〇回答率は下記のように地区別と全体について集計し表示し、簡単なコメントを付した。
総括 アンケートを配布した約1300世帯のうち約7割の方から回答を得たが、その内容は「防災に対する意識はまだ十分とはいえない」ものであった。しかも回答いただけなかった世帯が約3割あるので、これを含めると「防災に関する意識」の向上は緊急かつ必須の事柄であることが明らかとなった。防災部としては、できるだけ多くの人たちに訓練・勉強会へ参加してもらえるためにはどのような方法があるのか、知恵を集積していきたい。

《防災に関する意識調査》

いきなり、阪神淡路や東日本のような大地震がきたらあなたはどおする？
 【あなたの家の防災度チェック】
 次の項目に ○・△・× を記入して下さい。
 (○…している) (△…もうすこし) (×…していない)

- () 災害時の「家族の役割分担」を決めている。
- () 災害時の「家族の集合場所」を決めている。
- () 家族が離れ離れになった時の「連絡方法」を決めている。
- () 災害伝言ダイヤルを知っている。
- () テレビ、冷蔵庫、家具などの「転倒防止」をしている。
- () 家具の上に「重い物」をのせていない。
- () 寝室が「上の階」にある。
- () 「懐中電灯・懐中ラジオ」などを枕元近くに置いている。
- () 「防災用品・非常持ち出し用品」を準備し、家族全員が置き場所を知っている。
- () 「非常食品・水」など、最低3日分は準備している。
- () 「消火器」が備えてあり、「その場所・使い方」を知っている。
- () 「お風呂の水」は、いつも溜めている。
- () いざ、という時「地域の避難所とそのルート」を知っている。
- () その「避難所」に行ったことがある。
- () 地域の「危険度や特性」を知っている(危険場所・液状化地域)。
- () 「隣近所の人」を知っていて挨拶もする。
- () 「近所以外にも知り合い」が多く、付き合いは多いほうである。

- () 住宅の耐震診断を受けて「耐震補強」は済んでいる。
- () 自宅の「ブロック塀の補強」は済んでいる。
(ブロック塀が無ければ ○)
- () 「公衆電話」のある場所を何ヶ所か知っている。
- () 「応急救護」の方法・住方を知っている。
- () 「防災無線」の指示に従って行動する。
- () 大きな揺れがきたらまず何をすべきか事前に考えている。
- () いざ、地震が起きたら冷静に「判断・行動」する自信はある。
- () 「防災の知識」がある。
- () 「防災訓練」に参加したことがある。
- () 「救急救命訓練」に参加したことがある。



〇が「10未満」の人…… (割合) _____ %
 大地震が来たら、きっと頭の中は真っ白!! 自分の身は自分で守ることをもっと真剣に考えよう。

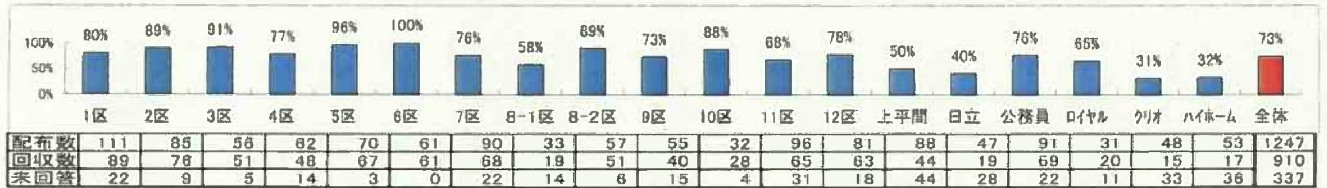
〇が「20個まで」の人…… (割合) _____ %
 いざという時、助かる可能性は大きいです。でも、もう少し「防災知識の備え」を万全にとおぼめいたします。

〇が「20個以上」の人…… (割合) _____ %
 何が起きても大丈夫!!…とは言い切れないですが、あなたは地域の防災リーダー!!!

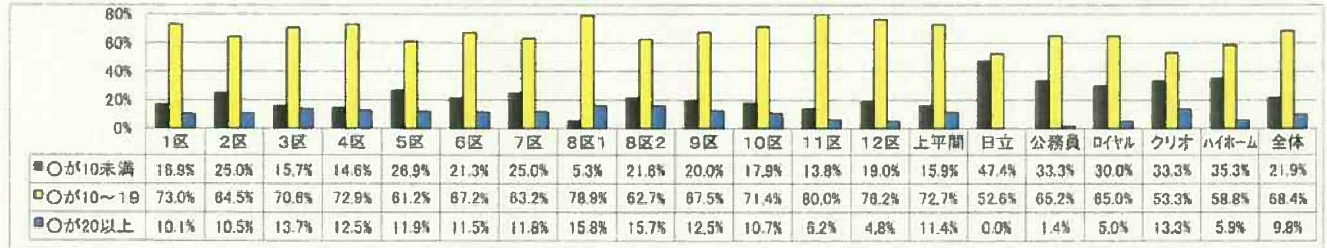
※ 市外ダイヤルの使用法 (携帯・固定電話どちらでもOK)
 ① → 自宅の電話番号 (市外番号からダイヤル) → 安否を伝えたい場合
 ② → 相手の電話番号 (市外番号からダイヤル) → 安否を知りたい場合

以上アンケート調査にご協力いただきありがとうございます。 上平間第2町会 防災部

アンケートの回収率 ※モデル地区は1区、2区、4区、5、6区および8区1と8区2。調査票配布数は町会費納入数とし、調査票が回収できた地区のみデータ化した。
 上平間=上平間住宅、日立=日立住宅、公務員=公務員住宅、ロイヤル=ロイヤルコート2、クリオ=クリオ住宅、ハイホーム=ハイホーム川崎
コメント: 回収率はモデル地区を中心に戸建住宅地域が高く、集合住宅の比率が低い



27項目の質問に対して〇と回答した項目数の分布 ※3つの分布に区分して傾向を示した
コメント: 〇と回答した項目数が多いほど防災意識は高いことになるが、〇が20以上は全体の1割に満たず、〇が10以下が全体の2割を超える。10以下の比率を減らし、20以上の比率を高める活動が必要。





質問16: 「隣近所の人」を知っていて挨拶もする コメント: 集合住宅の場合、住宅外でのコミュニケーションが近隣地区とあるかが課題



質問17: 「隣近所に知り合い」が多くつきあひも多い方である コメント: 戸建住宅軸でも気軽に相談できる周辺関係が課題になっているようだ。



質問18: 自宅の耐震診断を受けて「耐震補強」は済んでいる コメント: 実施数が少ないので、支援制度など適切な情報提供と行政支援が必要。



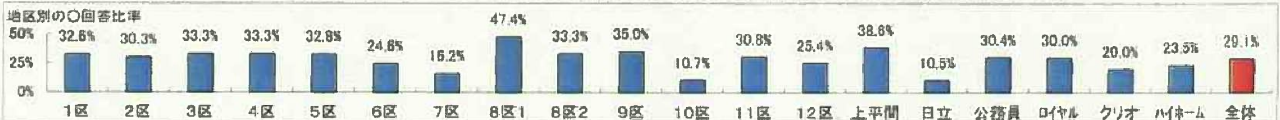
質問19: 自宅の「ブロック塀の補強」は済んでいる。塀がなければ○ コメント: 質問18同様、適切な助言・支援体制が必要。



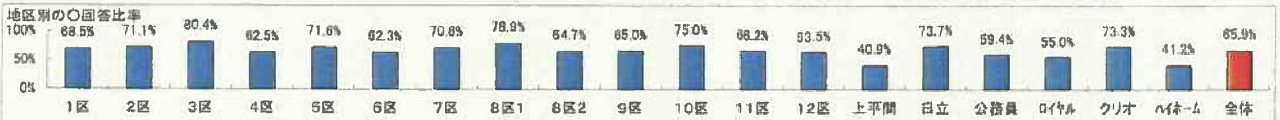
質問20: 「公衆電話」の有る場所を何カ所か知っている コメント: 公衆電話は減少しているので、防災倉庫・給水所などとともに周知が必要。



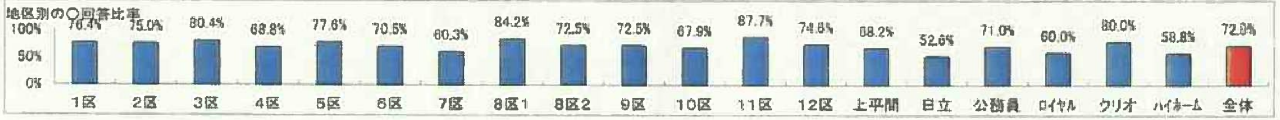
質問21: 「応急救護」の方法・仕方を知っている コメント: 大いに認識不足。是非全員が知識をもてるように周知を徹底すべき。



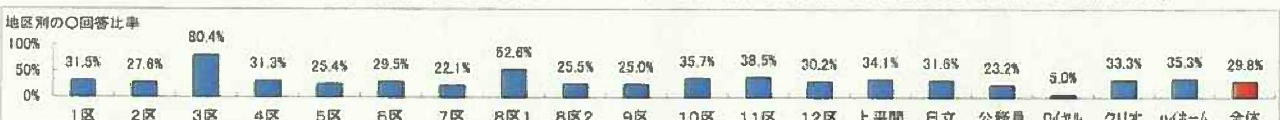
質問22: 「防災無線」の指示に従って行動する コメント: 比較的意識は高いが防災無線が聴き取り難いとの事。行政へ改善要求が必要。



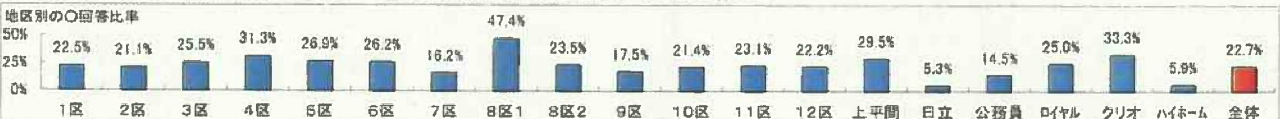
質問23: 大きな揺れが来たらまず何をするか事前に考えている コメント: 比較的意識は高いが質問24を見ると心許ないので、訓練は是非必要。



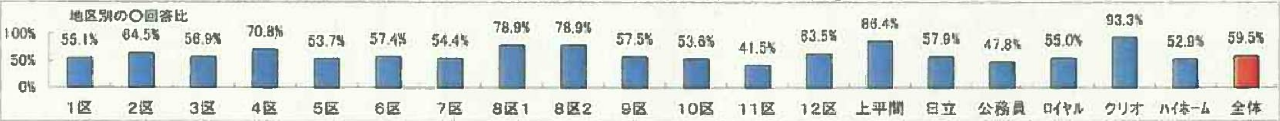
質問24: いざ地震が起きたら冷静に「判断・行動」する自信はある コメント: ごく一部の地域を除いていざというときに頼りない状況である。



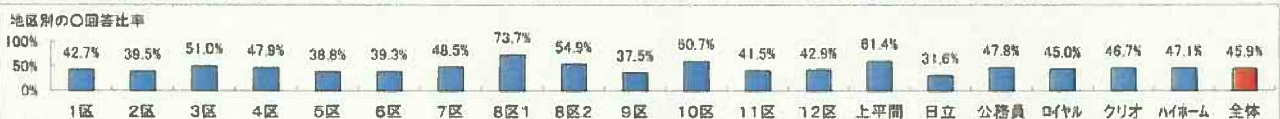
質問25: 「防災の知識」が有る コメント: 質問21同様に知識不足が明らかで、危険である。



質問26: 「防災訓練」に参加したことがある コメント: バラツキがあるが約半数が訓練参加経験がある。この経験を継続的かつ実践的に向上させる工夫をすべき。



質問27: 「救急救命訓練」に参加したことがある コメント: 質問26のコメントと同じで、以下に訓練を実質化するかの工夫が必要。



地震から身を守る手引き

グラグラッ!! 地震だ!! それ逃げろ!! まずこうした行動は避けなければならない。
震源地との関連もあるが、老朽家屋は別として建物が一瞬にして潰れるような事はない。
逃げると言う行動は生命を守るための最終の手段であって、その前にやらなければならない大切なことがいくつかある。
はやる心を落ち着かせ、まず何をしなければならないか判断し行動することである。

1 身の安全確保

屋内なら机やテーブルの下など、但し阪神大震災で犠牲者の84%が建物、家具転倒等による
圧死、そこで建物倒壊の恐れがあるときは状況判断のうえで戸外へ避難。

- (A) 過去の地震被害の例から見ると、建物の1階より2階の方が比較的安全であることが多い。
- (B) 寝室は寝ている間に地震が起きると一番危険な場所になります。寝室に家具を置く場合は、転倒防止又は倒れても人に当たらないよう工夫する。
- (C) 台所やリビング等のガラス類の入った家具の点検をして下さい。開き戸等のガラスはフィルムを張るなどして飛散の防止をしましょう。又開き戸は揺れても開かない様に止め金で止めておくようにしましょう。
- (D) 家具の転倒防止や、高い所に物を置かない様に。

2 すばやく火の始末

直ちに消すか、離れた場所では揺れが収まってから消す。

3 火が出たら初期消火

壁板から天井へと燃え移るまで3~5分かかり、大揺れ(約1分)が収まってから消す。あきらめずに消す。

- (A) 消火用品、防火用品の置き場所や使い方も習熟しておきましょう。
- (B) 灯油、食用油の場合
 - ㊦ 消火器で消す。
 - ㊧ 大量の野菜や、ぬれタオルを一気にかぶせ油温を下げて消す。
 - ㊨ 大きな蓋を手前の方からすべらせて、空気を絶って消す。
- (C) 石油ストーブが倒れた時、油が広がらない様に引き起こす。
 - ㊦ 消火器で消す。
 - ㊧ バケツの水を燃えている上から一気にかぶせるようにかけて消す。
 - ㊨ 毛布等をかぶせ、その上から水をかけて消す。
- (D) 電気器具や配線等の火災の場合
電気火災は、感電の危険があるので、ブレーカーを切る。コンセントを抜く。スイッチを切る等をして電流を断ってから消す。

4 出口の確保

出口のドアが変形し開かなくなるケースがあり戸外に避難出来なくなる。

5 あわてずに外に逃げる

瓦やガラスの飛散、看板等の落下物に注意、あわてて素足の非難は危険。

- (A) 家のガラス戸には飛散防止用にフィルムを貼るなりカーテンを引くなりする。

6 避難経路の確認

落下物、ブロック塀等に注意、事前に安全な避難経路を確認

- (A) 自宅のブロック塀の点検。人が通っているときに倒れると怪我をしますので古くもろくなっていたら、安全な物に変えることも考えましょう。
- (B) 地震直後に余震を避けて避難する。第一避難所ご近所の人と相談して下さい。
- (C) 地域にある市指定の避難所(最寄りの小・中学校)が何処か名前と場所を確認して下さい。
- (D) 避難の道順は最短距離を優先するのではなく、道路の道幅や電柱のトランスの有無、そ

の他危険がないか確認して安全性を第一に選んでください。

(E) 上の条件に照らして二通りの道順を選んでください。

7 隣近所の助け合い

家族の安否確認、ご近所の安否確認、倒壊家屋の中に閉じ込められた場合、災害救助隊の連絡網にのせて救助を頼む。

8 備蓄品、非常持出点検

地震が発生してから警察、消防、行政の救援は期待できません。その為3日間は自分たちで生き抜かなければなりません。

(A) 飲料水、食料品の備蓄は冷蔵庫の残りものに頼る事なく3日分は非常用を用意しておいて下さい。

(B) 防災器具の準備はリストに基づき計画的に用意してすぐに利用できるようにしておきましょう。(リストは別表)

9 協力しあって応急救護

地域ぐるみで応援、救急医薬品や三角布の使用法や蘇生法等の応急処置法を知っておきましょう。

10 災害から子ども達を守るための心得

運動場では、建物、塀、バックネット等から離れ中央部に集まって、教職員の指示を待つ。

通学路が危ない事もあるので、勝手に帰宅しない。又学校側も、無理に帰宅させない。保護者が迎えに来た時は氏名を確認して引き渡す。

11 公共の避難所

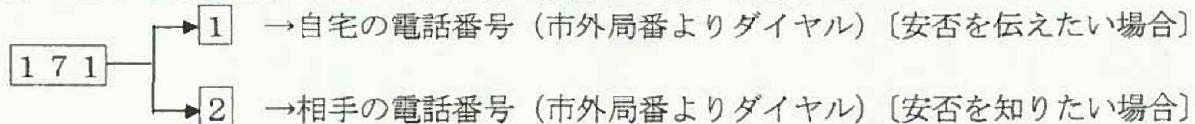
事前に一時避難所を指定、避難者確認のうえ救援物資が届く本部に移動。

12 家族との連絡

勤めや、通学、所用の為に家を離れた家族との連絡方法を決めて手帳等書き留めておくなどしておきましょう。

(A) 電話の不通、交通の混乱の際はどんな方法があるか。通勤、通学先の条件も配慮して連絡方法を考えておきましょう。

(B) NTTの伝言ダイヤルの使い方(携帯・固定、両方OK)



【家族で備える必需品(3日分は確保しておきたいもの)】

<input type="checkbox"/> 飲料水	<input type="checkbox"/> チリ紙	<input type="checkbox"/> ビニールシート	<input type="checkbox"/> 運動靴
<input type="checkbox"/> 簡易コンロ	<input type="checkbox"/> スリッパ	<input type="checkbox"/> 雨具	<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ・電池
<input type="checkbox"/> マッチ・ライター	<input type="checkbox"/> キャンプ用食器セット	<input type="checkbox"/> 洗面用具	<input type="checkbox"/> 医薬品セット(常用薬)
<input type="checkbox"/> 懐中電灯	<input type="checkbox"/> ポリタンク	<input type="checkbox"/> 生理用品	<input type="checkbox"/> ホイッスル
<input type="checkbox"/> 避難ロープ	<input type="checkbox"/> 簡易トイレ	<input type="checkbox"/> 縄はしご	<input type="checkbox"/> バケツ
<input type="checkbox"/> 缶切り・栓抜き	<input type="checkbox"/> 防災ずきん	<input type="checkbox"/> 現金・小銭	<input type="checkbox"/> 軍手
<input type="checkbox"/> 衣料(肌衣、下着)	<input type="checkbox"/> ゴミ袋	<input type="checkbox"/> 非常食	<input type="checkbox"/> 紙・記入用マジック
<input type="checkbox"/> 電話番号控え	<input type="checkbox"/> 家庭用消火器	<input type="checkbox"/> ろうそく	<input type="checkbox"/> 予備燃料(固形・ガス)

【非常持ち出し品(リュックサック等に入れてすぐ持ち出せる物)】

<input type="checkbox"/> リュックサック	<input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ	<input type="checkbox"/> 飲料水	<input type="checkbox"/> ホイッスル
<input type="checkbox"/> 医療セット(常用薬)	<input type="checkbox"/> 現金・通帳・印鑑	<input type="checkbox"/> 健康保険証	<input type="checkbox"/> 懐中電灯
<input type="checkbox"/> 電池	<input type="checkbox"/> 契約書や権利書のコピー	<input type="checkbox"/> (若しくはコピー)	<input type="checkbox"/> 親戚・知人・友人の連絡メモ
<input type="checkbox"/> 雨具	<input type="checkbox"/> 非常食	<input type="checkbox"/> ヘルメット	<input type="checkbox"/> ミネラルウォーター
<input type="checkbox"/> 紙おむつ(大人用も)	<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ	<input type="checkbox"/> 現金	<input type="checkbox"/> 生理用品
<input type="checkbox"/> 粉ミルク	<input type="checkbox"/> 紙・マジックインキ	<input type="checkbox"/> チリ紙	